

認知症疾患医療センター

● スタッフ（2022年10月1日現在）

- センター長 清水 聡一郎
(医師：高齢診療科主任教授)
- 副センター長 井上 猛
(医師：メンタルヘルス科主任教授)
- 山本 潤
(認知症看護認定看護師：キャリア支援室)
- 古見 嘉之
(老年薬学認定薬剤師：薬剤部)
- 都河 明人
(臨床心理士：高齢診療科)

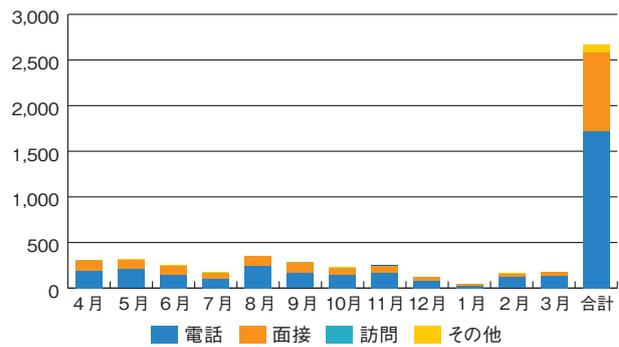
1999年より高齢診療科の「もの忘れ外来」で認知症の早期診断と治療、在宅認知症ケアネットワークを通じた病診連携、家族・介護者へ向けた介護者教室等へ取り組んできた。その実績が認められ2015年9月に東京都より認知症疾患医療センター（地域連携型）に指定されている。2018年には多職種で構成された認知症ケアチームを発足し、認知症ケア回診を開始した。その他2018年度より認茶屋（認知症カフェ）、2019年度より院内デイケア、2020年度より介カフェ（ケアラーズカフェ）を実施している。また地域や関係機関で実施される研修会等へ講師として積極的に参加し、連携を深めている。

- (1) 認知症疾患医療センターの役割
- (2) 認知症の早期発見と治療
- (3) 身体合併症・行動心理症状への対応
- (4) 専門医療相談の実施（専従の相談員を設置）
- (5) 地域連携（かかりつけ医との）の推進
- (6) 地域包括支援センター、医師会の連携
- (7) 認知症にかかわる人材育成
- (8) 院内スタッフの育成

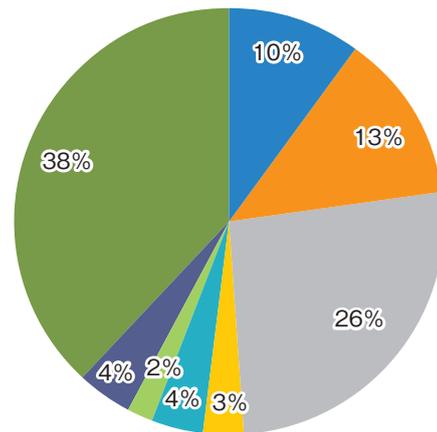
● 診療と相談実績

- (1) 初診は予約なしで受診可能であることが特徴
- (2) 外来初診患者は毎月30人前後で、約72%はかかりつけ医より紹介患者
- (3) 専門医療相談（専従社会福祉士、専任保健師による相談）は毎月270件程度
- (4) 新宿区や住民対象の研修会への講師派遣、東京都認知症疾患センター相談員研修の参加
- (5) 認知症患者の身体合併症や認知症鑑別のための入院は年間115件
- (6) 介護者教室、在宅ケアネットワークを定期的に開催
- (7) 認知症ケアチーム（認知症専門医、老年期認定薬剤師、社会福祉士、保健師、認知症看護認定看護師などの多職種）による回診を入院中の認知症患者者に対して開始（2018年3月～）
- (8) 院内認知症カフェ「認（みとめ）茶屋」を認知症高齢者と家族に対して開始（2018年10月～）
- (9) 院内デイケアを入院中の認知症高齢者、高齢者に対して開始（2019年5月～）
- (10) 「介（たすけ）カフェ」を認知症高齢者の介護者に対して開始（2020年7月～）

2022年4月～2023年3月 専門医療相談件数



2022年4月～2023年3月 初診患者の鑑別 “もの忘れ”の内訳



- ① 正常または健常
- ② 軽度認知障害 (MCI)
- ③ アルツハイマー型認知症
- ④ 血管性認知症
- ⑤ レビー小体型認知症
- ⑥ 前頭側頭型認知症
- ⑦ プリオン病による認知症
- ⑧ パーキンソン病による認知症
- ⑨ ハンチントン病による認知症
- ⑩ 正常水頭症
- ⑪ 精神疾患
- ⑫ その他 (行動障害型・言語障害型を含む)

2022年4月～2023年3月 専門医療相談の相談者別内訳

